

## 東京会議：マラリアに関するオピニオンリーダー

アフリカの発展にとって不可欠なマラリアとの闘い

記者会見：マラリアに対する闘いを強化するための呼びかけ

2008年5月28日（水）、09:30～10:30

TICAD,

パシフィック横浜、メディアセンター

東京/ジュネーブ、2008年5月26日：

5月27日より横浜で開催される第4回アフリカの発展に関する国際会議(TICAD)において、マラリアの克服に対する資金支援のテーマは非常に重要なものです。この3日間の会議の中、人類の安全というテーマにおいてアフリカのリーダーたちが、アフリカの経済発展の妨げとなるマラリアを克服することの重要性とその困難な闘いについてアピールすることになっています。

マラリアを克服することにより全世界で一年間に100万人以上の命を救うことができます。アフリカ諸国では医療費の40%がマラリアに関するものです。この病気を克服することは今世紀開発目標(MDGs)の一つとされています。

この社会経済問題への取り組みとして、マラリアを克服するため4つの有効な方法が提示されています：殺虫剤を添加したベッドネット、住居への殺虫剤スプレー、妊婦への予防措置、患者への有効で迅速な投薬です。

日本外務省でグローバル問題を担当する山崎氏は「ベッドネットを広範に使用することによるマラリア克服の試みは有効な結果が得られる」と述べています。2008年のマッキンゼーの調査によると、このプランを早急に大規模に実施することにより、250万人の命を救い、4億3000万のマラリア罹患を事前に防ぐことができ、さらに5年間に500億ドルの経済効果のプラスが期待できると報告されています。現在の支援枠に比べ、1ドルあたり現在の2倍の数の命を救うことができます。

ロールバンクマラリア(RBM)

パートナーシップのメンバー、世界的な公的・私的団体がマラリアの予防と治療のために行うべき投資について検討し、提案を発表しています。RBMのディレクターのアワ・マリー・コールセックは「国際社会の政治的コミットメントを得ることによりマラリアの長期的な克服は可能だ」と述べています。

7月に日本で開かれる

G8サミットに先立ち、リーダーたちがTICADに集まりマラリア克服のための資金支援の呼びかけを行います。

TICAD会議の記者会見における発言者：

Brian Greenwood教授 - 2008年野口アフリカ賞受賞、ロンドン大学、イギリス

Jun Yamazaki 日本外務省グローバル問題Deputy Director-General

Awa Marie Coll-Seck教授、RBMエグゼクティブディレクター、スイス

Yvonne Chaka Chaka、歌手、RBM グッドウィルアンバサダー、南アフリカ

Youssou N'Dour歌手、RBM グッドウィルアンバサダー、セネガル